

7

まずな

K I Z U N A

特集  
テーマ

多文化共生

多文化が息づくまち



## 8 情報ぶらざ



兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

# 暮らして 感じる、 日本の良さ

京都外国語大学 教授

ジェフ・バーグランドさん

在日外国人や旅行者の増加、東京オリンピック・パラリンピック2020の開催などを受けて、さらなる多文化共生社会の実現が求められています。しかし、在日外国人や旅行者が差別的な待遇を受けたり、様々な不便を強いられたりするなどの人権問題が依然として生じています。本号では、日本人と外国人県民が相互に理解し、共に支え合うことにより、各人が自己を生かすとともに、地域への参画と協働を担うことのできる多文化共生社会について考えてみましょう。

TBSテレビ『所さんのニッポンの出番』をはじめ、テレビなどで活躍のジェフ・バーグランドさん。学生の頃、ルームメイトだった日本人から、日本の風習などを聞いて「いつかは行きたい」と訪日に興味を持っていました。

## ①日本に来て驚いたことは。

これは日本に47年間住んでいても変わらない尊敬に値する驚きですが、日本人の受

信力がすごいと感じています。聞き手が分かるように話し手が言葉を尽くす発信者責任型の英語と違って、聞き手が話し手の言いたいことを察する受信者責任型の日本語を覚えると、物の見方が変わって人間として幅が広がったと感じています。

## ②日本に住んで思うことは。

東日本大震災の津波の後には、避難所にくさんの人がいたのですが、列に並ぶことができないお年寄りや妊婦さんなどに真っ先に水が渡るように配っている姿がテレビに映りました。その日本人の姿を見た世界中の人たちが賞賛しました。まさにその気遣いこそが日本人の受信力の表れだと思っています。2020（平成32）年の東京オリンピックの時には、日本人の受信力から生まれるおもてなしの行動によって、海外から訪れる皆さんも安心して日本を楽しむことができ

ると思います。

## ③今後の抱負は。

日本人の受信者責任型コミュニケーション

の素晴らしさをまとめた本※の英訳版を出版し、外国人に受信力の素晴らしさをもっと知ってもらいたいと考えています。本の出版やネットの映像などで、日本人の受信力を英語で世界の人に教えたい。あとは、孫たちが立派な国際人になるように成長を応援したいと思っています。欲をいうと、玄孫の顔が見たいかな。※日本語版は出版済み

## ④多文化共生社会を実現させるために、私たちにできることは。

両手を組んでみてください。右手の親指が上になっている人もいれば、左手の親指が上になっている人もいます。正解は一つではありません。他の人が自分と同じ常識・価値観を持っていると思わないで、もっと好奇心をもって、周りの人の違った物の見方を観察し、人として自分が成長していくプロセスを楽しんでください。

## プロフィール

1949（昭和24）年アメリカ合衆国サウスダコタ州生まれ。カールトン大学在学中に、同志社大学に留学。1970（昭和45）年、同志社高校に就職。帝塚山学院大教授などを経て現職。2014（平成26）年から京都国際観光大使。バーグランド薫さんとの結婚は43年目で息子3人、孫は5人。京都在住47年。現在は江戸時代後期に建てられた京町家に暮らし、日本人以上に日本の文化を愛する一人。



# 多文化共生のまちづくり ～温泉での体験から～

奈良教育大学学校教育講座  
(教育社会学) 教授

しづや まき  
渋谷 真樹さん

## はだかの異文化

### コミュニケーション

ある休日、地元の日帰り温泉でくつろいでいると、ふと背後で話している女性の言葉が日本語でないことに気が付きました。壁には、いつの間にか「please take off your shoes.」(靴を脱いでください)の貼り紙。かつて、旅先の大型温泉旅館でたくさんさんの中国語を聞いたことがあったので、温泉が外国人観光客の人気スポットであることは知っていました。しかし、近所の人が回数券で通ってくるような、観光地とは無縁のこの場所です。外国語に触れるとは、ちょっとした驚きでした。

ながる方々と、まさに「はだか」のお付き合いをする時代になっていることを再確認したのでした。

## ルールの「見える化」

考えてみると、温泉はルールの多いところ。かけ湯から始まって、あがる前に体をよく拭くことまで、日本育ちの子どもでも、ずいぶん注意されるものです。私自身、ハンガリーで温泉に行った時には、お湯につかるまでが冷や汗ものでした。どこで着替えてどこに荷物を置くのか、そして、どんな格好で大浴場に行けばいいのか(ハンガリーでは水着着用なのです!)、温泉好きの私にもまったくの異文化だったからです。

守らないと自分が恥かしい思いをするし、周りの人にも迷惑をかけるしまうルール。でも、そのルールは

土地によって違って、地元の人には当然でも、よその人には分かりにくいことが多いのです。いろいろな背景をもった人達が一緒にくつろげるようにするためには、分かりやすくルールを示すことが肝要です。

## 多文化が憩う場にむけて

また多文化共生のまちづくりに、前からいた人のルールをかなしく守るだけではなく、新しく来た人のやり方に良いものがあれば取り入れたり、お互いが納得できるような良い方法をつくり出したりすることも大切です。北欧生まれのサウナが、今や日本のあちこちの温泉で親しまれているように、外国からの新しいアイデアを取り入れることで、よりたくさんの方が、より豊かな文化を楽しむことができるようになるのです。

## プロフィール

お茶の水女子大学大学院博士課程修了。専門は異文化間教育で、多文化社会の教育について研究している。近著に、『日本の外国人学校』、『往還する人々』の教育戦略(ともに明石書店)がある。奈良県人権施策協議会委員。「ルーツを中国に持つ」と親の会「小草」代表。特定非営利活動法人「いこま国際交流協会」副理事長。



# 外国人の目線から、 温泉文化を発信

県内に暮らす外国人は9万8千625人※。兵庫で暮らしている人たちはどのような思いを持って生活されているのでしょうか。

有馬温泉の老舗「陶泉 御所坊」に勤務する金井良宮さんにお話を伺いました。

## 温泉文化との出会い

良宮さんが日本に興味を持ったきっかけは、高校生のころ受けた地理の授業。資源もなく国土も狭いけれども経済発展を遂げたハイテクの国、伝統文化が息づく国、相反するものが共存する日本に興味を引かれました。

来日の希望が叶ったのは、1999（平成11）年で、大阪外国語大学（現大阪大学）を経て神戸大学で学ぶ機会を得た時です。当時、仲間とともに訪れた有馬温泉の夏祭りでは、来訪者を温かく包み込む温泉文化や家族のように対応してくれる旅館スタッフの対応に「日本」を感じて、魅了されたとのこと。

## 来訪者の思いを大切に接客

再び日本に戻った良宮さんは、御所

坊で、ブランドマネージャーとしての仕事を始めました。肌で感じている御所坊の良さを料理やアメニティなど具体的なものに落とし込んで伝えていくことが仕事ですが、まだ手探りだそう。

その他、ウェブサイトのデザインなどにも携わり、海外へも情報を発信します。各国からの予約客や代理店とのやり取りもこなします。

仲居さんから、もてなしの作法や生け花の意味などを教えてもらっているという良宮さん。特に外国からのお客様には、温泉や日本の良さを感じてもらいたいと思っています。

「外国からのお客様の場合、その方の文化や風習などを理解して対応できるようにしておくことはもちろん重要です。しかし、こちらの思い込みで対応するのではなく、まずは、そのお客様とじっくり接して、その方の思いを大切にしたい接客を心掛けたい」と話します。

多文化共生社会を実現するために大切と思うことを尋ねると、来日当時に受け入れてくれた神戸の街や支えてくれた仲間を思い出しながら、「まずは、自分の文化を大切に」する気持ち

有馬温泉「陶泉 御所坊」  
ブランドマネージャー

かないらみや  
**金井良宮さん**



## プロフィール

金井良宮（ベルマヘジュビ・ラミア）さん。1979（昭和54）年、モロッコ王国・カサブランカ生まれ。大阪外国語大学（現大阪大学）を経て神戸大学で学ぶ。その後、東京大学大学院に研究生として在籍、健康食品メーカーに就職。フランスのESSECビジネススクールでMBAを取得。2011（平成23）年、再来日し御所坊に勤務。業務とともに育児もこなす。

を持つこと、そして、外国人やその文化風習に関して、思い込みを持たないことが大切だと思います。一人ひとり違いますから」とにつこり。

来訪者から、スタッフの対応へのお礼や日本文化を味わえてよかった等の感想をもらった時にやりがいを感じるという良宮さん。「これからも日本の温泉文化の良さを伝えたい」と抱負を語ります。

※2015年12月法務省調べ

## 子ども多文化共生教育の推進拠点 子ども多文化共生センター

「子ども多文化共生センター」は、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒が互いの「違い」を「違い」として認め合い、多様な価値観を受容しながら、共に生きようとする意欲や態度をはぐくむ、子ども多文化共生教育を推進するために活動しています。

**外国人児童生徒等に関する教育についての相談は、お気軽にお問い合わせください。**

〒659-0031 芦屋市新浜町 1-2（県立国際高等学校内）

電話：0797(35)4537 FAX：0797(35)4538 電子メール：mc-center@hyogo-c.ed.jp

- 利用時間：平日（月曜日～金曜日）  
9：00～17：00
- 閉館日：土・日曜、国民の休日、年末年始

- 教育相談：電話相談  
面接相談  
メール相談

開館日の9:00～17:00の間  
予約制  
※必要に応じて通訳をご用意いたします。  
上記アドレスへ。



## 外国にルーツがある人の 学びを支援

外国にルーツがある人は、文化や言葉、生活背景の違いなどに悩みを抱えていることが少なくありません。「こくさいひろば芦屋は、このような人たちの支援するために、日本語教室や子どもたちの学習支援イベント交流などを行っています。」

### 利用者の意思を尊重

2006(平成18)年9月に発足した「こくさいひろば芦屋」は、今年で10年を迎えます。設立のきっかけは、代表の辻本久夫さんが、ある外国人女性から「学習する場をつくってほしい」と要望されたこと。困っている人の支えになれるならと検討を始めました。

設立にあたって、辻本さんは、利用者となる外国にルーツがある人たちに「どのような場にしたのか」など、主体的な意見を求めました。その結果、「低料金で、子連れでも参加ができる居場所」

こくさいひろば芦屋 代表  
つじもと ひさお  
辻本 久夫さん

として日曜教室を開設することとなりました。指導にあたるのは、退職した教員や主婦、会社員、大学生、高校生などのボランティアで、約35名が登録しています。中には、日本語教室の卒業生もいます。

また、自分たちのことを発信したいとの要望に応えるため、文化や食にまつわるイベントを企画してきました。今ではアイデンティティを保つ良い機会となっています。

### 子どもたちの未来のために

辻本さんは外国にルーツがある生徒の高校進学率が低く、しかも退学者が多いことが気になっていました。その大きな原因は、日本語理解不足による「学力」不足。学力不足による貧困の連鎖を断ち切るために、中高校生を対象とした学習支援の「夜教室」を20年から、また「夏休み勉強教室」を22年から始めました。そして、27年からは、芦屋市教育委員会と協力して、入学式や始業式の前に、数日間集中的に学習支援を行う「プレスクール」を始め、スムーズな学校生活・進級・進学につなげようとしています。

ある少女は、「学校では外見のことで嫌な思いをすることがあるが、ここでは同じ思いを持つ友だちと楽しく過ごせる」と、こやかに話してくれました。

また、全国的にも珍しく、注目を集めている取り組みとして「レインボー芦屋基金」があります。これは、日本語能力試験や英語検定、調理師試験など資格試験の合格者に受験料等を「ステップアップ応援金」として給付するものです。個人から受けた寄付を元手に運営しています。

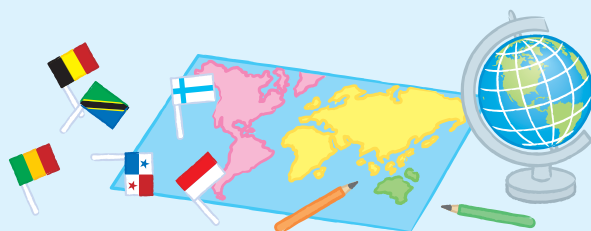
今後は、「行政や市民と協働して、外国にルーツがある人の居場所づくりを進めたい」と辻本さんは抱負を語ります。



プレスクールの様子。3日間で、延べ56人の児童生徒が参加して、新学期に備えました。

|                                | 日時                             | 対象            |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------|
| <b>日曜教室</b><br>(日本語学習・検定、学習支援) | 日曜日(参加費は年会費に含まれる)<br>午前10時～12時 | 大人<br>小学生～高校生 |
| <b>夜教室</b><br>(日本語学習・検定、学習支援)  | 火曜日と木曜日(500円/月)<br>午後7時～8時30分  | 中学生・高校生       |
| <b>場 所</b>                     | 芦屋市立浜風小学校会議室(芦屋市浜風町1-1)        |               |
| <b>年 会 費</b>                   | 1家庭2,000円                      |               |
| <b>連 絡 先</b>                   | 辻本代表(090-8989-9344)            |               |

活動の詳細は





## 地域の特性を活かして、 国際感覚を育む

「加東市国際交流協会は、兵庫教育大学に在籍する留学生と市民との文化交流や姉妹都市との相互訪問を柱とし、国際感覚豊かな市民の育成と、こころ豊かな地域づくりのために活動しています。」

### 市民と外国人の交流の場を設定

加東市内にある兵庫教育大学には、世界中から留学生が集まっています。加東市国際交流協会は同大学の協力のもと、留学生と地域住民が、料理教室やスポーツ大会、伝統文化の披露など様々なテーマで異文化を体験する企画を展開。子どもから高齢者まで幅広い世代が参加しています。

近年始めた取り組みに「加東キッズ・インターナショナルワークショップ」があります。市内の5・6年生を対象に実施しているもので、留学生やゲストティーチャーと共に英語や異文化に触れ、

特定非営利活動法人

**加東市  
国際交流協会**  
(加東市)



国際力を身につけることが目的です。昨年は、活動の一つとして、英語で表記された加東市の地図を制作しました。この地図は、姉妹都市である米国のオリンピア市の子ども博物館に寄贈し、展示されています。

同ワークショップを修了した児童の多くが、中学生になつて姉妹都市派遣事業に参加するなど、活動に発展が見え始め、異文化に興味を持つ若い世代が育っていることに代表の平川米一さんは、活動の手ごたえを感じています。

そのほか、留学生と地域家庭がペアになり、半年から一年間を「家族」として交流する「フレンドシップファミリー事業」なども展開しています。

### 国際感覚豊かな人材を育てるために

加東市はオリンピア市と提携し、毎年中高生の交換留学を行っています。同協会の前身となる団体から続く交流は、今年で35年目になります。

今年3月には、加東市から18名の中学生を送り出しました。留学前に、参加者は米国のマナーや文化を学習。「オリンピア市のバリアフリーの状況は」「学校での授業の様子は」など各人が研究テーマを設定し、仲間と話し合う機会も持ちました。

オリンピア市は、緑豊かで、教育や福祉分野において先進的な都市です。参加者はそれぞれに刺激を受けて帰国しました。高校生の一人は、「将来の進路を決める大きな経験となった」とホストファミリーと過ごした思い出深い時間を振り返りました。

大規模な工業団地がある加東市には、近年、外国人が急増しています。言語に不安を抱えて生活に不便を感じている人を支援するため、「地域の



全10回の「加東キッズ・インターナショナルワークショップ」では、英語によるプレゼンテーションや落語、姉妹都市についての学習などを行います。



旧社町、滝野町、東条町の三町にあった国際交流協会が合併して加東市国際交流協会を設立。2014(平成26)年からNPO法人。事務局担当は岡崎紗矢さん。

住所 加東市社1126番地1  
やしろショッピングパークBIO 2階

TEL 0795(42)6633  
FAX 0795(42)6634

人の協力を得ながら、日本語教室などの活動も取り入れていきたい」と平川代表は、今後の活動を思い描いています。

※Kato International Association G略

# 存在と問題の見えやすさはバロメーター トランスジェンダーが当たり前前に暮らせる社会

●マジョリティ優先社会と  
トイレ問題

●LGBTのT

学校や職場など、一日に何度も使用するトイレは、誰にとってもアクセスがしやすく、清潔で、安心して使えるものであつて欲しいです。でも例えば、多目的トイレ（バリアフリー・多機能トイレ）が増えたとはいえ、障害のある人々の苦勞が解消されるには、まだまだ数が足りません。

また最近、トランスジェンダーが直面している問題の一つとして国内外の注目が高まっています。原因は、男女別トイレの使用について、外性器の形態や戸籍上の性別が問われてしまう点にあります。

国内でも「性的マイノリティ」に代わつて使用されるようになってきているLGBT<sup>※1</sup>のTは、トランスジェンダーの頭文字です。出生時の身体的・生物学的特徴に基づいて割り当てられた性別とは異なる性自認をもつ人たちの自称として、当事者運動から生まれた用語です。現在では、国連を始めとして、国際社会で広く使用されています。

国内では、「性同一性障害特例法」によって戸籍上の性別を変更した成人がすでに6千人を超えています<sup>※2</sup>が、これは当事者のごく一部です。希望する全員が承認されるわけではなく、すべての当事者が必要要件である「性別適合手術」を望むわけでもありません。性は実に多様なのです。

●学校や職場における安心・安全

男女別の制服やトイレ・更衣室に限らず、当事者が直面する「生きづらさ」は、様々な存在します。「他とは違う」ということで悩み、そのことを誰にも相談できずに孤独・孤立感を深める人たちもいます。

## プロフィール



1966(昭和41)年、神戸市生まれ。早稲田大学を経て、ハワイ大学大学院、お茶の水女子大学大学院を修了(人文科学博士)。大学院を修了(人文科学博士)。ノートルダム清心女子大学助教授を経て、2005(平成17)年より大阪府立大学教授。専門は「性の健康と権利」。WAS(世界性の健康学会)「性の権利委員会」共同委員長、GID(性同一性障害)学会理事、NPO法人虹色ダイバーシティ理事など、研究・教職以外の活動も活発に行っている。

文科省では、資料冊子『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について』を刊行するなどしています<sup>※1</sup>が、みなさんの地域社会や職場はどうでしょうか？当事者の存在や問題の見えやすさは、重要なバロメーターです。差別・偏見にさらされる心配がなければ、おのずと相談やカミングアウトする人が増えてくるはずですよ。

※1 レズビアン(Lesbian(女性同性愛者))、ゲイ(Gay(男性同性愛者))、バイ・セクシュアル(Bisexual(両性愛者))、トランスジェンダー(Transgenderの頭文字を取った総称)。  
※2 最高裁の速報値(2015年12月現在)

## 映画紹介

### 裸足の季節

冒頭の海岸シーン。少女たちは、はち切れんばかりの若さを発散して輝いています。彼女たち5人姉妹は両親を交通事故で亡くし、叔父と祖母に育てられています。首都イスタンブールまで1000キロという黒海沿岸の小きな村がその舞台です。

自由と若さを満喫していた彼女たちの運命は、トルコの因習に忠実な叔父によって一瞬にして暗転します。一切の外出を禁止され家に閉じ込められて、自由を奪われてしまいます。花嫁修業を強要され、順に見知らぬ男と結婚させられていきます。

祖母も叔父も姉妹たちに愛情を持っているのですが、新しい時代に生きる彼女たちは、そうした古い因習を苦痛に感じています。とりわけ末娘のラーレはそんな境遇に反発します。周囲に準備し実行し、幸運にも恵まれて、イスタンブールまで逃げ切ります。彼女たちの、理屈なしに自由を求める強い気持ちに惹かれます。そんな彼女たちを応援する人たちも描かれていて救いとなっています。



監督: デニス・ガムゼ・エルギュヴェン  
出演: ギュネシ・シェンソイ  
ド・ドゥッセル他。  
2015年、フランス・トルコ・ドイツ  
94分。

●お問い合わせ  
シネ・リーブル神戸  
078(334)2126

7月16日からシネ・リーブル神戸で公開されます。

## きずなトピック

大阪府立大学教育福祉学類 教授

ひがし ゆう こ  
東 優子 さん

# ひょうご・ヒューマン フェスティバル2016

入場  
無料

in あこう を開催

**日時** 8月20日(土) 9:30~15:30

**場所** 赤穂市文化会館(ハーモニーホール)  
赤穂市中広864番地 0791(43)5111  
**TEL** 赤穂市総合福祉会館(赤穂市文化会館南隣り)  
赤穂市中広267番地 0791(42)1397

**アクセス**

・JR播州赤穂駅より徒歩東南へ10分  
・山陽自動車道赤穂ICより自動車10分

8月は「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間です。兵庫県では、市町と一体となって啓発活動を行っています。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

## 【赤穂市文化会館(ハーモニーホール)】

- 人権講演会「あなたは宝物! 自分らしく生きよう!」  
つば みる こ 露の団娘さん(落語家・僧侶)
- 地元団体によるふれあいステージ 和太鼓・獅子舞・ハーモニカ
- ステージショー「それいけ! アンパンマン ショー」
- 人権ユニバーサル事業  
サウンドテーブルテニス体験、車いす体験、知的障害疑似体験
- 子ども多文化共生イベント

## 【赤穂市総合福祉会館】

- 人形劇
- 皮革焼きコテアート体験
- シカ肉料理試食コーナー
- ヒューマンシネマ
- 人権なんでも相談

\*他に、福祉団体によるクッキー、野菜等の販売なども盛りだくさん。

**問い合わせ先** 公益財団法人兵庫県人権啓発協会

神戸市中央区山本通4丁目22-15 県立のじぎく会館内 **TEL.078(242)5355**

## イベントガイド

|                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                           |
|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>兵庫県<br/>平成28年度外国人<br/>児童生徒にかかわる<br/>就学支援ガイダンス</b></p> | <p><b>日時</b> 7月23日(土) 13:30~16:00 <b>場所</b> 神戸市総合教育センター<br/>※JR「神戸」駅、神戸市営地下鉄海岸線「ハーバーランド」駅から徒歩約5分<br/><b>日時</b> 7月29日(金) 13:30~16:00 <b>場所</b> 尼崎市立教育総合センター<br/>※JR「塚口」駅から徒歩約20分 阪急「園田」駅から徒歩約15分<br/>(1) 就学及び高校入試に関する説明 (2) 外国人の先輩による体験談<br/>(3) 教育相談 ア 面談による。(事前申し込みが必要) イ 相談時間は1人30分を基本とする。ウ 必要に応じて通訳を配置する。</p> | <p><b>問い合わせ</b><br/>兵庫県教育委員会事務局<br/>人権教育課<br/><b>TEL 078(362)3793</b></p> |
| <p><b>神戸市<br/>心かよわす<br/>市民のつどい</b></p>                      | <p><b>日時</b> 7月28日(木) 13:30~15:45(開場 12:30)<br/><b>場所</b> 神戸文化ホール 中ホール ※神戸市営地下鉄西神・山手線「大倉山」駅から徒歩1分<br/>人権啓発推進協力委員委嘱式 人権講演会<br/>● 講師 渡部陽一さん(戦場カメラマン)<br/>演題「世界からのメッセージ~平和と命の大切さ~」※6月8日より先着順受付(先着600名)</p>                                                                                                          | <p><b>問い合わせ</b><br/>神戸市イベント案内・<br/>申込センター<br/><b>TEL 078(333)3372</b></p> |

ラジオ関西「ハートフルフィーリング 谷五郎のところにきくラジオ」(毎週月曜10:00~15:00)で、  
14:35頃からきずなの記事を紹介しています。

## 人権に関する川柳を 募集します!

いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。  
優秀作品は「きずな」に掲載し、オリジナルクリアファイルをプレゼント。

募集  
テーマ

**高齢者、職場、ネット社会**

**応募方法** はがきか、FAX、メールで受け付け。  
郵便番号、住所、名前(ペンネームの場合も併記)、年齢を明記のうえ、ご応募ください。応募は各テーマお1人1点とします。8月1日(月)締め切り。

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限ります。

**応募先** (公財)兵庫県人権啓発協会(下記参照)



かつて、多様な民族が暮らす街はシチューに例えられていました。すべてが融合しているイメージです。最近は、サラダボウルに例えられることが多いようです。こちらは、それぞれの野菜がそれぞれの味や歯ごたえを残しています。言い換えると、一人ひとりが持つ背景・文化が尊重されつつ、全体としてみると一つの社会としてまとまっている、そんなことを意味しているのだと思います。

一人ひとりを大切にすることは人権の基本。多文化共生社会においても欠くことのできない視点です。6月には、ヘイトスピーチ対策法が施行されました。すべての人が対等に話せるまちづくりが進むことを願います。(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内  
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 [info@hyogo-jinken.or.jp](mailto:info@hyogo-jinken.or.jp)

兵庫県人権啓発協会

検索

2016(平成28)年7月発行